2011.08.12

アイルランドの世界遺産は正真正銘の崖っぷち！

担当：Rica

先日、東京都の小笠原諸島がユネスコの世界遺産に認定され、報道各局に取り上げられ世界遺産熱にわき上がったことは記憶に新しい。ちょうどその頃、私はアイルランドの世界遺産を訪問していた。それが今回のお題、Skellig Michael (スケリッグマイケル)。

Skellig Michael (スケリッグマイケル)とはアイルランドの西海岸から沖合16kmに位置する急な岩山からなる孤島。島好きの私にとっては必ず制覇したい世界遺産。足は漁船を思わせるような地元の人が運営する小さなボートのみ。夏の海が安定する時期だけ運行されている。

西暦588年にケルト人により山頂付近に蜂の巣をかたどったような修道院がたてられ今現在も奇麗な状態を保っている。1996年にユネスコの世界遺産として登録される。島には珍しい種類の海鳥なども間近で見ることが出来、隣の島にはアザラシなども生息している。

２年前からずっと行きたかった場所だが、時期限定という事もあり何度もチャンスを逃していた。今回はちょうど夏。太陽の下でのハイキング世界遺産観光だ。しかしそれが、まさかあれほど過酷になろうとは.....。

そもそもアイルランドの夏を勘違いしていた私。天候不順で日本の梅雨どきを思わせるようなどよーんとした空。そのうえ寒い！　出発前のスウェーデンは連日２７度の常夏状態。気をとり戻し、週間天気予報を見つつ晴れの日を選び、前日から港付近に宿泊。早朝の出航に備える。
当日の早朝はかろうじて太陽もお目見えしていたのに、船長から「今日は残念ながら海が荒れているけど、出航には問題ないので、気持ち揺れる程度と思っていてくれ！」との言葉。

いざ出航してみると、少しの揺れどころではなく、日本なら確実に運航中止間違いないほどの荒れ狂う海。朝お目にかかれた太陽など見る影もなく、嵐が来そうな空。まさに魚船なので座る椅子もなく甲板の突起している部分にかろうじて腰をかけていた私、振り子のような船の大きな揺れ、真剣に海に投げ出されるかもしれない。と、とにかく力一杯へりを握りしめ、足でふんばっていた。洋服は海水でずぶぬれ。死ぬかもしれないと思うほど恐ろしかった。そういえばこれから行くスケリッグマイケルは以前２～３名の観光客の島での落下による死亡事故が起きている。そんな記事を読んだことがある。石を積み上げて作られた急な階段には手すりがなく、死者が出たにもかかわらず、当時のままの景観を守ろうという地元の人たちの考えがなのか。あるいは、一人一人が気をつければ問題がないという考え方なのかもしれない。それにしても、観光にこれほど恐ろしさを感じたことが今まであっただろうか？

また、修道院の島ということで、修道士の過酷な修行も身をもってわかる。強風が切り立った島の岩肌を打ち付け手すりの無い崩れ落ちそうな石の階段は、立っては下ることも出来ず、座りながらの下り。まさに恐怖との戦いだった。
下りのすれ違い様に船長と出会う。「調子悪そうだったけど大丈夫だった？　あのくらいの揺れで今まで事故になったことはないので大丈夫、問題ないよ！」とのお言葉。その昔、多くのバイキングがアイルランドに移り住んでいると聞くけれど、あまりにもワイルドな船長なのであった。

WRITER PROFILE
Rica
ファッションデザイナー。ジュンアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シシリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド『Rosenkrona』を立ち上げ、北欧と日本で活動中（www.rosenkrona.com）。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン＆食、秘境の町＆村めぐりなど興味は広範囲。